



高野校だより

校訓

至誠

進取

自治

協同

舞鶴市立高野小学校
令和6年度 学校だより
第9号
令和6年11月29日発行

〒624-0832 舞鶴市高野台1-1
Tel 0773-75-0768 Fax 78-3050
HP <https://takano-maizuru.edumap.jp>



「リフレーミング」してみると

日に日に冷え込みが厳しくなり、中庭の銀杏も葉を落とし始め、いよいよ冬本番を迎える季節となりました。

11月には、舞鶴市小学校合同音楽会での5・6年生の素晴らしい発表、また聾学校舞鶴分校との交流、城南中学校区駅伝交流記録会、5年生の社会見学や夢講演会、6



先輩から学ぶ夢講演会



校区駅伝交流記録会

年生のふるさと学習など、学校の中だけではなく様々な場でも学びを深めたり、頑張ってきた力や成果を発揮したりすることができました。子どもたちの健気でひたむきな姿に心から拍手を送りたい場面が幾度となくありました。確かな実りのあった11月となりました。

人権旬間のスタートにあたり、集会で次のような話をしました。

『皆さん、「リフレーミング」という言葉を知っていますか。』

リフレーミングとは、見方を変えるということです。短所を長所として見たり、言い換えたりすることで、その人の特徴をよいところととらえて認めることです。「それって本当によくないところかな?」と見直してみることです。

例えば「おこりっぽい」皆さんならこの言葉どんなふうに変えますか? どんな言葉に変えたらよさが見えるでしょうか? 見方を変えて、ちがう言葉に変えてみましょう。おこりっぽい→「感性が豊か 情熱的 正義感が強い 一生懸命 エネルギッシュ」など…。他にも、「わがまま」→自分の気持ちをはっきり言える。「気が弱い」→人を大切にすること。「無口だ」→人の話をよく聞く。「心配性」→細かいところまでよく考えている。「ふざける」→ムードメーカー など。

このようにリフレーミングをしてみると、その人の見方が変わり、友達のよさ、自分のよさが見えてくるかもしれませんね。また見方や発想を変えることで、イライラしたり、不安になったりすることなく、豊かに過ごせるヒントが見つかるかもしれません。(中略)

友達のこと、自分のことについてしっかりと見つめ、みんなで学びを深め、「今日も来てよかった」「明日も来たいなあ」とみんなが思える高野小学校を一人一人の力で作りましょう。』要約をしておりますが、以上のような内容です。

人権旬間では、自分を大切に思うこと、友達を大切にすること、「おかしいことをおかしい」と気付く力、そして気付いたらアクションを起こす力など、人間として大切なことを心の中にじっくりとはぐくむことができるよう取組を進めているところです。

いよいよ2学期最後の月である師走となります。保護者の皆様、地域の皆様には、引き続き学校教育推進へのご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

53年前の高野っ子の思いが今に

今年度も、聾学校舞鶴分校との交流を実施しました。今年度は、交流の前に5年生が聾学校舞鶴分校に行き、ともに和太鼓の練習をさせていただき、自校でもたたき方の練習をする姿が見られました。交流会では、聾学校舞鶴分校の児童とともにすばらしい響きの和太鼓演奏を披露することができました。

53年前に6年生の児童であった野村寺の方に来ていただき交流が始まった当時のお話を聞く機会がありました。当時の6年生は、手作りの竹馬に乗って、走ったり、ジャンプをしたり、時にはそれでサッカーをしたりするなど大切な遊び道具として使っていました。しかし季節は移り変わり冬になる頃にはその竹馬で遊ぶ子はいなくなり、置き去りにされている日が続いたそうです。それを見かけた当時の担任の先生が「この竹馬どうする?」と投げかけられました。子どもたちからは、竹が手に入らない街の小学校に贈ってはどうかという意見も出ていたそうですが、校区の子でいつも一緒に遊んでいた子が通っていた学校が盲聾分校(当時の呼び方)だったので、そこに贈ろうという話になったそうです。高野小学校から竹馬をプレゼントし、そのお返しとしてクリスマス会に招待していただいたことがきっかけとなり、正式に交流が始まったというお話を聞かせていただきました。

53年の時を経て、今年度は全校での交流の他にも5年生が竹細工を通したつながりを持つよう考えているところです。53年前の児童の思い、長年培われてきた両校児童の交流への思いを大切にしながら、今後も心温まる交流の場をつくっていきたくと考えております。

校長 材木 敏志 教職員一同



舞鶴市小学校合同音楽会の様子